

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田 朝子

開催月日	令和6年7月29日(月)			
開催時間	13:15~14:10			
開催場所	滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号			
主催者	全国市町村国際文化研究所			
研修会等の名称	令和6年度「第2回市町村長・議会議員特別セミナー」			
講師等の氏名等	成蹊大学文学学部現代社会学科 教授 伊藤 昌亮氏			
内容・結果等	【講義Ⅰ】曖昧な弱者とその敵意 ~社会分断の新たな構造~			
	◎社会的弱者と社会分断…①「弱者叩き」と「弱者争い」(飲食店叩き・生活保護バッシング)			
	②「曖昧な弱者」が「明白な弱者」に敵意を抱く…(「自分こそが弱者」だとすべての人が弱者化する時代・「救済措置を優遇措置に読み替える) ③上下分断と左右分断との相関…下が上を叩く、下が左に:相関あり→下が右に→中が下を叩く、中が右に:相関なし			
	◎「明白な弱者」への対応…①分断の政治(貧困型弱者→福祉国家論、社会保障政策)			
	②承認の政治((差別型弱者→アイデンティティポリティクス、人権政策)			
	◎「曖昧な弱者」の発生…①日本型「分断の政治」の劣化 ②日本型「商人の政治」の展開			
	③中心部における排除(・高齢者ではなく、結婚できないので子育て世代でもなく、女性でも外国人でもGBTQでもなく・ロスジェネ男性:自らを被害者視、マジョリティとして加害者視される			
	・弱者男性:KKO(キモくて金のないオッサン)→関係型弱者:低学歴独身中年男性			
	・従来の社会的排除論:周縁部における排除→純貧困と準貧困、純差別と準差別			
	【感想】講義名をみても、どのような内容だろうかと臨んだ講義、初めて聞く言葉もあり難しい講義だった。しかしながら、日本型「分配の政治」の劣化が「曖昧な弱者」をつくることも理解できた。			
	「曖昧な弱者」には対応すべきだが、「明白な弱者」への対応をおろそかにしてはならないとあり、まずは、両者のことをもっと知るべきと感じた。			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		研修費	全国市町村国際文化研究所	7,300
		旅費	JR	38,500
宿泊費				
振込手数料				
合計			45,800	

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田 朝子

開催月日	令和6年7月29日(月)		
開催時間	15:05~16:35		
開催場所	滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号		
主催者	全国市町村国際文化研究所		
研修会等の名称	令和6年度「第2回市町村長・議会議員特別セミナー」		
講師等の氏名等	滋賀県知事 三日月 大造氏		
内容・結果等	【講義Ⅱ】ともにいきる 未来につなぐ みんなでつくる「健康しが2.0」		
	①「子ども・子ども・子ども」と「ひとづくり」		
	「すまいるあくしょん」…小中学生、高校生、大学生等(31,320人)		
	「子どものために、子どもとつくる県政」		
	①子どもの医療費助成の拡充(市町と連携し、高校世代まで医療費助成:2024年4月開始)		
	②(仮称)滋賀県子ども基本条例 ③子ども県議会		
	④こどもなBASE(「子ども」+「おとな」プラットホーム		
	⑤こどもとしょかん ⑥滋賀県初の高等専門学校(2028年4月開講予定)		
	⑦高校生の海外留学」応援		
	プログラム		
	①子ども・子ども・子ども」と「ひとづくり」 ②「ひとの居場所」と「公園」		
	③琵琶湖わたしたちの暮らし ①滋賀の風土と歴史が生み出した農林水産業 ②琵琶湖の		
	水源「山の健康」 ④ 気候変動と生物多様性 ⑤まちづくりと地域交通		
	⑥文化・スポーツとレガシー ⑦大阪・関西万博と水のつながり		
	⑧ 県北部地域の振興		
【感想】 最初、講義名を見て「健康しが2.0」とあり、福祉政策の講義と思っていたが、「より良き自治の追求」のために滋賀県全体を健康にしたい三日月知事の強い思いを感じた講義だった。			
滋賀県の地形、自然を生かした、子ども中心の施策を各市町と連携を取りながら、知事自らリーダーシップを発揮されている印象を受けた。「より良き自治の追求」のためには、「人づくり」が大事と感じた			
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 の 先	金 額 ( 円 )
	会費		様式3-1に同じ
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田 朝子

開催月日	令和6年7月30日(火)		
開催時間	9:00~10:30		
開催場所	滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号		
主催者	全国市町村国際文化研究所		
研修会等の名称	令和6年度「第2回市町村長・議会議員特別セミナー」		
講師等の氏名等	リクルートワークス研究所 主任研究員 古賀 星斗氏		
内容・結果等	【講義Ⅲ】 「労働供給制約社会」への処方箋 一働き手不足1100万人が引き起こす危機と希望		
	日本が全く新しい社会に突入しつつあること、そしてその社会を持続可能にするための打ち手		
	◎日本社会に何が起こるのか…労働供給制約-景況感や企業業績に左右されず、労働供給量が		
	ボトルネックになる。(ワークフロー:業務の一連の流れの中で業務の停滞や生産性の低下を招い		
	ている行程箇所のこと)		
	◎解決策の提案…①徹底的な機械化・自動化 ②ワーキッシュアクト(趣味の活動や日常習慣を		
	通して不足する労働力を分担する)という選択 ③ シニアの小さな仕事 ④ムダ削減		
	◎まとめ ①単なる「人手不足ではない ②「労働供給制約社会」がやってくる。人手は今後足り		
	なくなっていく。③座して待てば生活維持サービスが破綻し、悪循環に ④労働需要を減らし、労		
	働供給を増やすための打ち手 ⑤「令和の転換点」で迫る、日本の最初のチャンス		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 ( 円 )
	会費		様式3-1に同じ
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田 朝子

開催月日	令和6年7月30日(火)		
開催時間	10:50~12:20		
開催場所	滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号		
主催者	全国市町村国際文化研究所		
研修会等の名称	令和6年度「第2回市町村長・議会議員特別セミナー」		
講師等の氏名等	COLOMAGAプロジェクト本部事業局長/伊豆市版KURURA事務局 高橋 いずみ氏		
内容・結果等	【講義Ⅳ】 こどもたちの生きる力を育む ~「COROMAGA プロジェクト」活動の軌跡~		
	COROMAGAとは…子どもたちがつくるローカルマガジン		
	子どもたち(小学校4年生~中学3年生)とプロのクリエイターが、自分たちの「まち」を取材し、		
	ローカルマガジン(地域情報誌)と一緒に作る 非営利の活動		
	2013年伊豆市修繕寺南小の地域学習で作った壁新聞→「せっかく作った情報があるのに、		
	見られのが先生と生徒だけではもったいない!」→地域情報誌(フリーペーパー)		
	2014年より対象を伊豆市内全域に広げて小中学生を公募		
	10年続いた効果…①子ども編集部発足(高校生+中学生) ②大学生コネクトチーム発足		
	子ども編集部のサポート ・講座時の小中学生へのサポート ・COROMAGAサミット企画運営		
	④全国展開へ(東京、神奈川、山梨、長野、京都など1都1府5県18地域が参加)		
	【感想】今回の研修で民間の取組みとして、活動のすばらしさを感じ、とても興味深く聴講した。		
	「生きる力」を育むプログラムとして・シビックプライドの醸成(自分の根元の認識、		
	自信 ・自分が感じたものをアウトプットして伝える力(自己肯定感・自己効力感 ・キャリア		
教育(仕事に対するポジティブな感情) ・サードプレイスの創出(心の安定) ・何かを生み			
出すセンスとパワー(行動力、実行力) 子どもを通じて大人たちも地域の良さを再認識すると			
話された。まさに子どもを中心にかつ子どもの居場所を提供しているプログラムだと強く感じた。			
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 ( 円 )
	会費		様式3-1に同じ
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		